

## 質 問

ディスクレシアの方の対応事例について、白石様にご質問させていただいています

質問です。

42歳男性 Gさん（ディスクレシア対応事例）に関して質問させていただきます。

「読めますか？」の slides でお示しくくださった文字ですが、回答を示していただかなければ解読不能でした。かろうじて「と」がわかるくらいです。

見え方に個人差があるとは思いますが、事例の方がこれまでどのように社会生活を送って来られたのか、どのように補完されていたのか・・・と思います。

事例の方はディスクレシアの障害がありながら設計のお仕事に従事されていたとのことですが、設計の図面は大変細かく、数字や文字も細かく記載されています。

設計図面は欠損なく見えていらっしやったのでしょうか。それとも、対顧客やベンダーさん等との交渉ややりとりの中で設計に関してもトラブルが発生していたのでしょうか。

一見すると「コミュニケーション上のトラブル」と捉えがちな事象であっても、実は「見えていないことに起因している」という可能性もあるのだろうか・・・との推測からの質問です。

発達障碍の方は、特性的に非常に細かいところに気づけるといった特性がある方がいらっしやいますが、弊社の業務的にはその特性はアドバンテージでもあります。

院卒高学歴の方の中には、空間認識や立体の認知が他の項目（WAIS の検査項目）と比べて低い方もいらっしやいます。

障碍の出方は様々だと思いますが、事例の方は「識字に問題が生じていたものの、図面は欠損なく読むことができていた。よって設計のお仕事は普通に出来ていた。」ということなののでしょうか。

図面には図だけではなく、細かい数字や英語が記載されています。数字や文字は欠損して見えていたのでしょうか。

「文字・数字」と「図」の見え方の違いについて整理したく、理解したくご質問させていただきました。

細かい質問をさせていただき大変恐縮ですが、迅速に理解して差し上げられるように整理しておきたいと考えました。ご教示いただきたくお願いいたします。

## 回答

スノームの白石です。ご質問ありがとうございます。

ディスレクシアの方のサポートについて、講演でも申し上げた通り 3 事例を混ぜて架空の事例を作成しています。

- ① 文字の縦棒しか見えない方
- ② スライドにある感じで、薄く模様に見える方
- ③ 文字が動いて重なって見えてしまう方

宮本先生とその後のお話しで、②や③の方はアーレン症候群の可能性もあるね。とのお話しでした。

しかし、①の方も耳からの情報を筆記で文字に出来ることもあり、今のディスレクシアの定義では、読字と筆記は同等に出来ないこともあるとのこと、珍しいというお話しもありました。

それぞれ、背景を書かずに文字の見え方と対処だけお伝えしますね。

- ① 文字の縦棒しか見えない方

図面、映像記憶が異常なほどに鮮明で 20 代の旅行を思い出しても、動画の様に再生される方でした。アルファベットや数字、数式も読み込みだけでなく記憶も良く、論理思考、予測機能も問題ないため、今回の事例の様に設計や CAD が使える方でした。

大学院まで卒業されていますが、図の記憶すごいため、マークシートの文字列を、QR コードを記憶する感じで記憶し、回答との整合性を覚えていき、テストは問題なかったとのこと。「当時での読み上げソフトも買って試したけど、雑音が酷くてあまり使えなかった。大学院では友人に読ませていた(バレない様に読んでもらうのが大変だった)」とのこと。QR コードの違いも分かってしまう方なので、複雑な画面や複雑なコードをざっと見るとバグや図面のズレ等は誰よりも早く見つけられていました。ただ、映像記憶はかなり脳の容量を使ってしまうみたいで、脳の疲労が激しく、少し睡眠が取れなくなるだけでも抑うつ気分や怒りが抑えられなくなるため、他部署とのトラブルが止まらない状況で、文字の読み方よりも、睡眠の確保がとても難しい方でした。

- ② 文字が薄く模様に見える方

この方も大学院卒です。アルファベットも数字も模様に見えるため、なぜか大学のコピー機を使うと読める。ということで、あらゆる教科書や資料をコピーして読んでいたとのことでした。おそらく、大学のコピー用紙が当時“藁半紙”で、背景が薄茶色だったため、読めていたかもしれません。会社では、コピー用紙がしっかり白色で、しかも手帳が配布されその手帳でスケジュール管理をしなければならないルールだったので、一気に資料や仕事のマニュアルが読めなくなってしまったみたいです。

筆記も今一つまっ直ぐ書こうとしても私は読めず、どんどん歪みますので、こちらの方は軽度のディスレクシアにおそらくアーレン症候群も被っていたのではと思います。上司に相談して、手帳を自分の選んだものに替えてもらい、色のある下敷きを使って資料を読むようにしたら、資料とマニュアルが読めるようになりました。読めれば業務は一人分にはなったようです。ちなみに、この方は視野も簡易

で調べると、かなり左の失認もあり、よく左側がぶつかるようでした。ただ、学生時代の膨大な量の資料をひたすらにコピーし続けられる状況からも、飽きないことルーティン業務以外は困難でしたので、みなさんが嫌がるメンドクサイ業務もひたすらやってくれるという特性を活かした業務配慮で上司に満足していただく。という支援を頑張りました。

③ 文字が動いてしまう方は、実際は既に中学生くらいから児童精神科へ受診している方でした。親御さんが裕福な方で、小さい頃からパソコンが自宅にあり、自分が読めるフォントや画質にこだわって機材を揃えている方でした。仕事で使用する PC の解像度が低すぎて、自分が読める環境にすることができず、読めなくなった方でした。

この方は筆記の困難がありましたが、アルファベット入力で画面に出た文字を、自分が読めるフォント、背景にすると文字が動きませんでしたので、とりあえずは、文字に背景色を付けて読むことを頑張りましたが、今一つ効率化せず。後々PCを新機種に替えてもらいました。(上司のPCを最新にする予定を譲ってくれたみたいです。ありがたや。) ちなみに、そうはいつでも、文字が動く範囲もかなり激しかったため、主治医にも相談する様に伝えたところ、内服は微調整されたようです。(既往歴から、軽い幻視の可能性もありましたので・・・)

※背景を真っ黒にして、システムのコードの様に名刺を黄色、動詞を赤という設定を自分で設計して読み直すと言う作業をしていましたね。もう、こちらが思いつける工夫は超えて感心しかありません。

ご質問にある「文字・数字」と「図」の見え方の違いについては、一般化するのは難しいなと感じています。思うのは、本人が今まで生きてきた中で、一般的な特性の方からは理解できない程の努力や工夫をされています。

その中に、その方の解決のヒントがあると思いますので、ぜひ今回感じた疑問は、そのままクライアントさんに聞いてみると、会社で出来る工夫が見つかるなと思います。

神経発達症傾向の方は、自分の体調や態度に気づけない方が多いため、自分に起こっている状況が他の人とは違うと自覚することが難しいですね。発熱感や腹痛が自覚できずに、腹膜炎まで起こしても仕事に来ている人もいますから、ぜひ保健師さんで気づいて差し上げると、一人一人、コツコツ改善されていけるかと思います。

以上、何かのヒントになれば幸いです。